

連携シート『むすびの和』（井笠版） 基本的考え方

1 目的

井笠地域住民が治療または療養のため、医療機関、在宅、施設への入退院等をする際、関係する医療・看護・介護等の関係職員が本人の情報を迅速かつ的確に把握、共有できる。

これにより、本人のニーズに基づいた一貫した医療や介護等支援の適切な提供の一助になる。

2 基本姿勢

① ICF（国際生活機能分類）に重点を置き、岡山プライマリ・ケア学会が作成した連携シート『むすびの和』をベースに井笠地域の特性を生かした項目を用いる。

②医療、看護、介護等の様々な職種や本人・家族が記入し、支援に活用する。

3 活用方法

①対象：医療、看護、介護等の関係機関が連携した医療や介護等の支援が必要な井笠地域住民を対象として、必要に応じて作成する。

②シートの新規作成：入退院や在宅療養等連携の必要が生じた時点で、連携の必要があると判断した機関の担当職員が中心となって作成する。

③シートの更新：本人の状況に変化が生じた場合、その時に本人に最も関わっている担当職員が必要に応じて更新し、関係者と共有する。

本人の状況に変化が生じ、本人に最も関わっている担当職員が変わった時は、新たなシートを更新すると共に過去の原本も引き継ぐ。

④シートの保管：原本は本人に最も関わっている機関の担当職員（作成者）が保管する。必要に応じて本人もしくは家族にも連携シートの写しを提供する。

